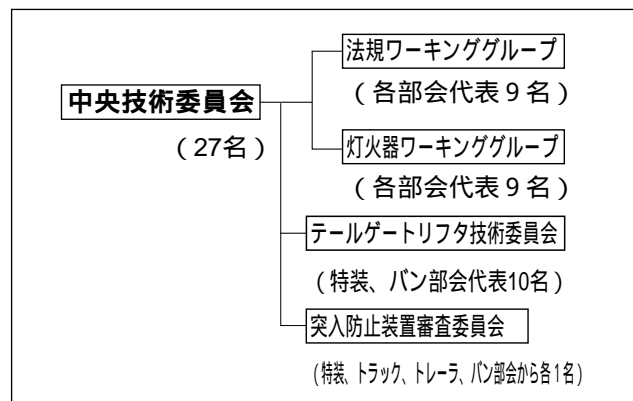


中央技術委員会

法規関係への対応を主体に
会員共通の技術課題に取り組む

1. 組織

田中委員長以下、各部会技術委員長及び副委員長、事務局合計27名の委員で運営している委員会。今期の重点活動の一つである法規対応の充実のため、法規対応と灯火器対応の2つのワーキンググループを今期から立ち上げました。また、下部組織とテールゲートリフタ技術委員会と突入防止装置審査委員会を設置しています。



2. 活動内容

(1) 車両法規改正への対応

近年、自動車産業のグローバル化が急速に進展しており、自動車基準の国際調和の推進が叫ばれています。我が国でも「国連の車両等の型式認定相互承認協定」に加入し、協定規則を段階的に適用しています。国土交通省が協定規則の直接引用の考えを打ち出す等、協定規則の改訂等の動きを把握し、特装車にも円滑な適用を図れるよう対外的折衝活動や会員への指導活動をしています。また、世界的な基準調和、認証の相互承認、日本の基準・認証制度の国際化を推進している自動車基準認証国際化研究センター（JASIC）の灯火器分科会等に委員を派遣し、情報の収集に努めています。

(2) 標準化の推進

車両関係の統一規格類としてはISO、JIS、JASOがありますが、当会に關係する内容について原案策定や審議に参画し、特装車にも適用できるよう意見反映をしています。

第5回目は、法規制対応や会員各社の技術レベル向上に力を注いでいる大きな組織の「中央技術委員会」を紹介します。

また、また統一規格では網羅できない車体架装や特装車特有の部分は、当会の団体規格としてJABIA規格を設定していますが、この充実も重要課題であり、新規設定や環境変化に対応した見直しを図っています。

(3) 装置型式指定制度の調査研究（突入防止装置審査委員会）

突入防止装置については、長年突入防止装置審査委員会でリベット制度を運営してきましたが、2007年9月でその役目を終え、装置型式指定制度に移管することになっています。

装置型式指定の取得方法について会員各社に紹介するため、実際の窓口である国土交通省自動車交通局審査課や交通安全環境研究所自動車審査部と調整を行っています。今期末までに説明会を開催するべく準備を行っていますが、2007年度の中で円滑に新制度に移行を完了させたいと考えています。

(4) 保安基準改訂に関する技術的な検証

2006年1月1日から適合されている新灯火器基準より、テールランプカバーの取り付けが出来なくなっているが、新基準に適合するランプカバーの形状について、日本車両検査協会や日本自動車輸送技術協会に試験を依頼し、調査研究を進めています。

また新たに後部突入防止装置の強度アップも検討されていますが、海外含めた技術調査も今後計画予定です。

(5) 会員会社の技術レベル向上への支援活動

当会は、中小企業が大半であり、新技術開発や技術者育成になかなか手が回らないのが実態です。反面、環境対応や原価低減、軽量化要請、短期開発等、技術力がますます必要になっており、これらへの支援活動が課題となっています。具体的には不具合事例の共有化、PL情報の展開、各社の相互見学会を実施していますが、今後はこれらを充実させていきたいと考えています。

部会・委員会紹介/部会長インタビュー

中央技術委員会

田中 勝志 委員長に聞く

(極東開発工業株式会社 代表取締役社長)

最適な車づくりには 架装メーカーからの積極的な 働きかけも重要

最近の自動車を取り巻く環境について教えてください。

普通トラックの総需要については、03年度以降排ガス規制（NOx・PM法、首都圏環境条例）による需要増に支えられ各社好調な業績を上げて来ましたが、しかしながら、排ガス規制による強制代替も一巡し、これからは8万台レベルになると予想され、少ない需要の中で利益の出せる体質作りが重要になってきます。また、環境や安全性に世間の目が向いてきており、環境・安全に配慮した車づくりのための技術の構築も重要になっています。

各シャシーメーカーも「お客様にとって最適な車づくり」をするためには、架装物の占める重要度が高いことを再認識されてきています。架装性の優れたシャシー開発に向け、我々架装メーカーからも積極的な働きかけのできる「ものを言う架装メーカー」にならなければならないと感じています。

中央技術委員会の主要課題、取り組みについてはいかがですか？

環境や安全に関する規制（具体的には環境負荷物質の削減や灯火器・突入防止装置等の取り付け等）のグローバル化対応の動きがありますが、架装メーカーの立場から、実際にお客様が使用される上での必要不可欠な機能が損なわれないような働きかけをJASIC等、いろいろな場で行っていきます。

また、架装メーカーのリコールも増加する傾向にあり、各社の不具合情報の共有化を進め、車体工業会全体の技術レベルの向上に努めていきたいと考えています。



委員長個人としての、会社の内容や技術についての意見をお聞かせください。

昨年、我が社は日経ビジネス誌の上場企業の「知財力ベスト100」に選出されました。中でも伸長力(研究開発の成長性)で高い評価を得ています。研究開発費を成長分野にうまく投入しているとの評価ですが、残念ながら即効力(研究開発費を素早く事業に結びつけ営業利益を伸ばしているか)等はまだまだ低いレベルとなっています。この点を改善し、営業利益を素早く生み出すような研究開発への見直しを進めていきたいと思っています。

また、我が社も2007年問題は深刻でありノウハウの継承に向け、ベテラン技術者による若手技術者への製品講習会等に積極的に取り組んでいます。「一流」と呼ばれる製品を数多く世の中に提供していけるよう、継続して取り組んでいきたいと思っています。

Profile -----

◆業務歴

1966年 4月 極東開発工業株式会社 入社
1994年 6月 同社 取締役 就任
2003年 4月 同社 取締役社長 就任

◆車工会歴

2000年 7月 理事 就任
2001～2003年 7月 特装部会長 就任
2006年 10月 副会長・中央技術委員長 就任

◆趣味・嗜好

囲碁・ゴルフ・テニス

◆人物寸評

明るくてやさしく、温かな性格ですが、業務に関しては社内改革を積極的に推し進めるなど厳しい姿勢で臨みます。興味のあるものはトコトン追求する性格であり、趣味である囲碁・ゴルフ・テニスの腕前はなかなかのもの、その多才さが魅力です。